

## 「シンガポール派遣参加報告書」

京都大学文学研究科博士後期課程2年 (氏名) 五十嵐涼介

以下では、今回の派遣によって得られたプログラム内容、学習成果、海外での経験、進路への影響について簡単に報告する。

**(1) プログラム内容**

今回派遣では、ほぼ例年と同様全6回のセミナーに参加した。それぞれのセミナーはシンガポール国立大学、およびYale-NUSカレッジの異なった教員の方々に担当していただき、トピックはアリストテレスやヒューム、カントといった哲学史における重要な哲学者についてのものから、心の哲学、科学哲学など、現代的なテーマに関するものまで多岐に渡ったものであった。事前に与えられた資料を予習していたおかげもあり、授業では概ね活発な質問・議論が行なわれていたように思われる。これに加えて、シンガポール国立大学哲学科の学生との合同ワークショップが開催された。報告者は発表しなかったが、こちらも非常に活発な議論が行なわれた。

**(2) 学習成果**

前述したセミナーについては、題材が非常に広範であったため、特に自分が専門としない領域についての文献を読み、議論をすることを通じて新しい知見を数多く得ることができた。また合同ワークショップについても、様々なテーマの発表を聞くことができ、非常に有意義なものとなった。さらに、報告者はシンガポール国立大学の学生と共同研究を行なっているが、今回の派遣の自由時間を利用して議論を深め、研究を進展させることができた。

**(3) 海外での経験**

シンガポール滞在は今回で三回目であったが、今回は特にシンガポール国立大学の学生との交流が活発であった。先方の学生にほぼ毎日のように交流イベントを企画してもらい、シンガポールの各地を見学することができた。特に最後の週末にはセントーサ島や、マリーナ・ベイ・サンズといったシンガポールを代表する地域を見学し、現地の文化を体験することができた。このようなイベントを通じて現地の学生とより深い交流をすることができ、海外での体験としても非常に有意義なものとなった。

**(4) 進路への影響**

今回の派遣では前述した通り、現地の学生とより緊密な交流をすることができた。その中には、共同研究者をはじめとして、報告者と近い領域の研究者もいるため、今後自らの研究を進めていく上で長期的に国際交流および共同研究を進めていくことのできる人脈を得ることができたと考えている。